

麻酔科

《概要》

麻酔科は当初、大学医局から常勤医師の派遣を受けておりましたが、医師不足の状況が悪化する中、派遣元となる大学が変わったり、常勤医の辞職が続いたり安定せず、平成 20 年度初めには、麻酔科スタッフがゼロになるという、危機的状況に向かえました。そこで病院は方針を変え、特定大学の医局派遣に頼るのではなく、麻酔科医師を公募することとし、それ以降、常勤・非常勤の麻酔科医師が少しずつ集まりました。ゼロからのスタートとなった平成 20 年度は、最終的に常勤医 3 名(小林俊司麻酔科長、仲谷憲部長、久場良彦部長)、非常勤医 3 名という体制でしたが、平成 21 年度には新たに 3 名の常勤医(米本紀子副医長、足立匡司医長、東浩司医長)が加わり、非常勤医は 1 名減って、常勤医 6 名、非常勤医 2 名の体制となりました。全体にベテラン揃いの布陣で、その多くは 10～15 年以上のキャリアを持っています。常勤医のうち 4 名は、麻酔科標榜医、日本麻酔科学会指導医であり、1 名は麻酔科標榜医、日本麻酔科学会専門医の資格を持っています。非常勤医 2 名は麻酔科標榜医であり、うち 1 名は日本麻酔科学会専門医の資格も持っています。現在の麻酔科スタッフは、様々な環境で経験を積んできておりますので均質ではありませんが、それが逆に強みにもなっています。手術麻酔以外にも、ペインクリニック、集中治療、救急、循環器、呼吸器などのサブ・スペシャリティを持つスタッフ、研究や教育業務の経験豊富なスタッフなどがおります。

平成 21 年度の年間総麻酔管理件数は 2,439 件と、平成 20 年度の 2,408 件とほぼ同じ水準でした。麻酔内容では、全身麻酔が約 300 件増えました。麻酔管理件数は横ばいでしたが、今年度は回復したマンパワーを生かし、麻酔の質の向上に努めました。

まず、麻酔の術前回診および同意書の取得は、平成 21 年度から原則として麻酔科スタッフだけで行えるようになりました。術後回診も可能な限り行うこととし、その結果、麻酔管理料の算定も、多くの症例で可能になりました。術後回診の際は、全身状態のチェックはもちろんのこと、数値化された指標を用いて疼痛の評価をし、また患者様の麻酔に対する意見を拾うなど、内容的にもレベルの高い回診になるよう工夫しました。

また、麻酔そのものの質も向上しました。なかでも麻酔中に行う術後鎮痛法については、従来は硬膜外持続注入以外の方法は少なかったのですが、今年度から神経ブロックの適応症例を増加させました。硬膜外麻酔の施行不可能な症例や、硬膜外麻酔でカバーしきれない領域まで、可能な限りケアする方針としました。また、エコーガイド下の神経ブロックを増やし、ブロックの精度も向上しました。そのため以前と比べて最近では、術後疼痛は非常に低く抑えられていると思います。

当院では平成 20 年秋頃から、位藤俊一がん治療センター長が音頭を取り、緩和ケアチームが立ち上げられました。実働する緩和ケアチームは、麻酔科の仲谷憲部長を中心とし、他の医療スタッフらと共に構成されています。平成 21 年度よりその活動は本格化し、緩和ケアチームによる定期的な病棟回診も始められました。また 10 月には、りんくう緩和ケア研修会も開催され成功を収めました。そして平成 21 年度末には、当院は大阪府がん診療拠点病院の指定を受けることができました。近年、緩和ケアの社会的ニーズは飛躍的に高まっており、当院緩和ケアチームの担う役割も、日ごとに大きくなりつつあります。

当院のペインクリニックは今までの経緯から、奈良県立医科大学麻酔科学教室教授の古家仁先生に週 1 回来ていただいております。平成 21 年度からは、米本紀子副医長も週 1 回の外来を担当するこ

となり、ペイン外来が週 2 回に拡充されました。当麻酔科の常勤医が加わることで、入院患者様の疼痛治療にもある程度対応が可能になり、また緩和ケアともリンクできる可能性ができました。

研修医、若手医師の教育に重点を置くことや、救急救命士の挿管実習に貢献することは、平成 20 年度からの目標でしたが、平成 21 年度には、2 年目研修医 6 名、1 年目研修医 2 名、救急救命士の挿管実習生 3 名、挿管実習再教育者 2 名を受け入れました。

手術室のモニターは、耐用年数を超えて疲弊しておりましたが、平成 21 年度に一新され、より安全な麻酔を行うことが可能になりました。

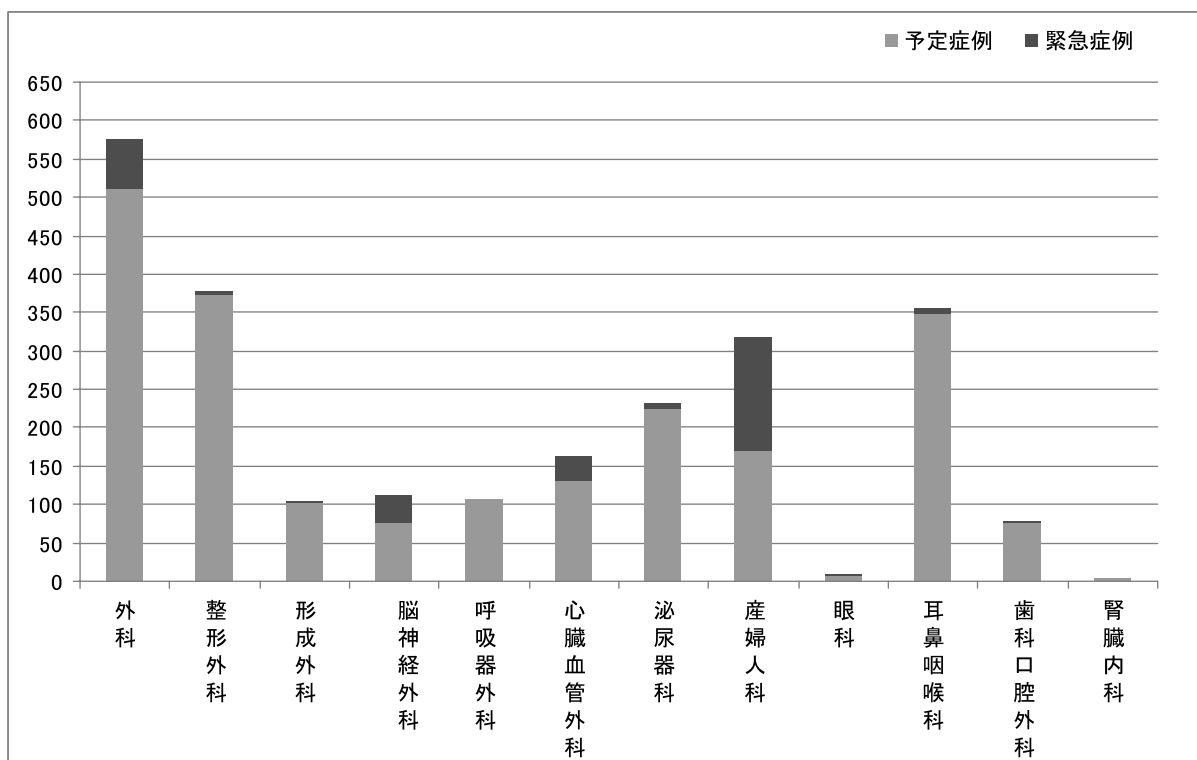
平成 21 年度の当院麻酔科は、昨年度から建て直しつつあった基盤をより強固にし、その仕事内容を質的に高めることができたと自負しております。また、私たち麻酔科医が非常に働きやすい環境、雰囲気を実現しており、さまざまな医療スタッフや事務の方々、市の関係者の皆さんには、心から感謝したいと思います。平成 22 年度以降は、基本である手術麻酔の質と量を高い水準で維持するとともに、病院の運営方針に従い、必要があれば更に広範囲の分野で、麻酔科の職責を果たしていこうと考えております。

《実績》

科別麻酔症例数(2009.4.1～2010.3.31)

	外科	整形外科	形成外科	脳神経外科	呼吸器外科	心臓血管外科	泌尿器科
予定症例	511	374	102	75	107	131	226
緊急症例	65	3	4	36	1	33	7
計	576	377	106	111	108	164	233

産婦人科	眼科	耳鼻咽喉科	歯科口腔外科	腎臓内科	合計
169	6	348	77	5	2131
148	2	8	1	0	308
317	8	356	78	5	2439



《業績》

(1) 原著、総説、著書 (2009. 4～2010. 3)

番号 整理	題 名	著 者	著書・誌名	巻(号)	ページ	年
1	Pseudoaneurysm of the mitral-aortic intervalvular fibrosa on a native aortic valve following infective endocarditis	Kayo Takimoto, Fumio Arai, Takashi Kita, Shigeta Sasaki	Journal of Anesthesia	Volume 24 Number 2	260-263	2010
2	知っておきたい病気のあれこれ “緩和ケアについて”	仲谷 憲	ニュースせんなん	821	3	2009

(2) 学会研究会報告 (2009. 4～2010. 3)

番号 整理	演 題	発 表 者	学会・研究会名	年 月 日
1	第2回岸和田緩和ケアネットワーク研究会 (座長)	仲谷 憲	岸和田緩和ケアネットワーク研究会	2009. 7. 25
2	りんくう緩和ケア研修会(企画責任者)	仲谷 憲	りんくう緩和ケア研修会	2009. 10. 3-4
3	北河内二次医療圏緩和ケア研修会(ファシリテーター)	仲谷 憲	北河内二次医療圏緩和ケア研修会	2009. 10. 17-18

(3) 学術講演 (2009. 4～2010. 3)

番号 整理	演 題	発 表 者	発表場所及び対象	年 月 日
1	がん疼痛緩和講演会	仲谷 憲	市立泉佐野病院	2009. 11. 13
2	市立泉佐野病院 緩和ケアチームの紹介 がん性疼痛についてのアンケート結果 2009年10月実施	米本紀子 仲谷 憲 宮川真由美	市立泉佐野病院	2009. 11. 13

(4) 院内研究活動 (2009. 4～2010. 3)

番号 整理	演 題	発 表 者	年 月 日
1	痛みの管理 術後急性疼痛管理を中心として (臨床集談会)	久場良彦	2010